

日本金属通信 (2018年10月5日付 4面)

助成研究表彰式、記念講演会を開催

基金 鉄鋼環境
鉄鋼環境基金（福島裕法理事長 || JFEスチール専務執行役員）は4日、茅場町の鉄鋼会館で第9回（2018年度）助成研究成果表彰式、記念講演会を開催した。



福島理事長 挨拶する

表彰式では、理事長賞を受賞した北海道大学大学院工学研究院の坪内直人准教授、技術委員長賞を受賞した同研究院の夏井俊悟助教、さらに鉄鋼技術賞を受賞した大阪大学大学院工学研究科の桑原泰隆助教に福島理事長が表彰状、記念品を授与。その後は受賞者各人が研究テーマに関する講演会を行った。

福島理事長は「民間の資金による表彰制度は企業と研究者にとって双方に有益。産学連携のお手本になってほしい」と話し、本表彰の意義と研究者へのエールを送った。同基金は1973年の設立以来、累計1797件、総額40億8700万円の研究助成を行っている。今回は応募のあった10人について選考を行い、3人が表彰された。

理事長賞を受賞した坪内氏は「安価な低品位褐鉄鉱を用いるコークス炉ガス中の含窒素化合物の分解除去法の開発」をテーマに、ガス処理の高効率化や、水素の最適利用化などの環境調和型製鉄プロセス、石炭ガス化複合発電などへの応用に道を拓いたことが評価された。また、技術委員長賞を受けた夏井氏は「高反応性原料の3次元ヘリカル構造による低炭素高炉の固気流れ安定化」、鉄鋼技術賞を受けた桑原氏は「高炉スラグを原料としたリン吸着剤の合成と実排水からの効率的リン回収・再資源化技術の開発」をテーマにした研究成果が評価された。